

第8回「aaca 千葉・茨城地区建物視察会 参加記」



遊佐謙太郎

三菱地所株式会社

都市計画事業室 副室長

日本建築美術工芸協会法人会員

aaca から頂いた建物視察会の企画案を目にした瞬間から、「このところ訪れてみたいと願っていた建築やまちを総ナメにした、なんと心が通じ合う企画だろう。これは何があっても参加しなくては我が人生に悔いが残る」という多少大げさな決意が第一印象でした。出発当日の11月15日、関東〜千葉方面は「朝から一日中雨」という天気予報でした。そんな中、東京駅近くを発してアクアラインを越え千葉県に入ると、紅葉も見え始めた小さなアップダウンのある小山達をいくつか越えて奥深く進む中、所々から農家が落ち葉を焼く煙が仄かに立ち上がる鄙びた晩秋の山村風景が眼前に展開し、学生の頃に丁定規と三角定規だけでは到底書けない平・立・断の製図課題で大格闘した「国のまほろばとしての大多喜の地域環境の中に立つ建物をイメージ」された今井兼次の大多喜村役場への期待が一段と高まりました。



到着すると1959年竣工にしてはRC打ち放しの建物状態も良く、大多喜城や敷地の高低差等の立地関係、床や照明器具、大会議室の木梁の寺社を思わせる装飾、ドアの取手の細やかな想いの込められたディテールへの配慮、また遠くから遠望されるヨーロッパの小都市を思わせる塔など今井兼次が込めた情熱・靈感が今でも感じられ、町民からも愛されている名建築であることへの想いがつりました。この建物が手狭になったため2012年に千葉学氏の設計により増築された建物は、シンプルなボックス形状の中に、45度に振られた梁や空調設備などが収まった解放感のある天井の高い一体的な空間が印象的で、周囲からの眺めも良い明るくて使いやすいような建築でした。

続いて、バスで市原湖畔美術館へ。高滝湖へ開かれた景観が印象に残る、現代美術館でした。芸能人並みに忙しいスケジュールの中を、次は千葉市緑区にあるAACA賞などを受賞した日本初の写実絵画専門美術館のホキ美術館へ。敷地はJR外房線の土気駅にも近い新興戸建住宅街の中というそのロケーションにまさ

は驚きました。法令的制限を逆にとり、ゆっくりと歩行する巡回路が緩やかな円弧を描き、地下にも広がる空間を、眩惑的な写真としか思えない写実絵画を見ているうちに、非日常的な意識を覚えました。やがて地上に出てみると現代の構造設計・施工技術の粋を尽くした美しい巨大なキャンチレバー構造が大きく印象に残るのです。さて、正午に近い中、バスは千葉中央部の平坦な地形の中を成田方へひた走り、うなぎ料理で有名な川豊別館で美味しいうな重に舌鼓を打たせて頂きました。一日中雨という天気予報を裏切る幸運な薄曇りの天気が続く中、次は三里塚にある吉村順三設計による唯一の小ぶりな教会を訪問。限られた予算の中で、簡素で味わい深い祈りの空間を創造した吉村順三の力量に感銘を覚えました。冬の夕暮れも近くなる中、佐原の街並みを視察。



東日本大震災により歴史的建造物に被害のあった地域ですが、復興も順調に進んでいる様子で、かつての街並みが蘇りつつありました。

次の16日は朝から快晴。まずは水戸藩第九代藩主徳川斉昭によって造園された梅で有名な偕楽園へ。千波湖に臨む素晴らしいロケーションに梅を中心とした数多くの植物が植えられ、「民と偕(とも)に楽しむ」という名君斉昭の思いに心を馳せるのでした。そのあとバスは一気に茨城北部の五浦へ向かい、内藤廣氏の設計で建築学会賞などを受賞し、内部空間のPC梁の構造が印象に残る天心記念五浦美術館や、震災の津波により流失後、最近再建された六角堂を見学。強い風と海の香りの中で、天心が明日の日本を想った瞑想的ロケーションに魅惑されました。



最後の視察地である茨城県の真壁町は稲田石で有名な加波山西側に位置しアクセスが難しい場所ですが、よくぞ企画して頂いたものです。夕闇が迫る中、真壁伝承館や重伝建地区に指定された街並みを堪能。



全体として様々な想いの込められた建築や街並み、美しい日本の風土・風景、そしてaaca会員皆様との交流を2日間楽しめた素敵な視察会でした。